



おまち~

Vol.
87

2015. 1. 1 (隔月1回1日発行) 編集発行：群馬県県土整備部都市計画課(まちづくり推進係)

花と緑のぐんまづくり2015は
中之条町で開催します！

美野原「プレオープン・「町の日」記念



西富岡内匠線が開通しました！



【特集】大学生によるまちづくり活動

- コミュニティサイクルのすゝめ
- 観光まちづくりのススメ〜鍵を握る観光協会のこれから〜
〜墨田観光協会と大田観光協会の取材を通して

【トピックス】

魅力あるまちづくりの
「パートナーネットワーク講座」って？

マーチィ'sROOM

- マーチィに訊け まちづくりライブラリーから
おすすめの一冊
- マーチィ VOICE ファシリテーター紹介
- マーチィの掲示板 土地地区画整理組合連合会
東日本ブロック協議会を終えて

【まちづくりイベント情報】

- マーチィの独り言 県内で行われるイベントの紹介
編集後記



「景観」の視点から「まちづくり」を考える

表紙：「花の駅美野原」プレオープンの様子・西富岡内匠線（環状線）完成の様子



「景観」の視点から 「まちづくり」を考える

群馬県都市計画課 景観・都市行政係

1. 「規制」と「誘導」

「市場万能主義」という、伝統的な経済理論に則った「経済哲学」があります。これはおおざっぱに言えば、規制するよりも自由な経済活動を行う方が、何事も万事上手くいくという考え方です。

金融市場も流通市場も、基本的にはこの考え方に沿って20世紀後半から規制緩和を進め、そして自由な競争を奨励してきました。

しかしながら、こと「景観」については、リーマンショックが起こる前から、この「市場万能主義」の考え方が適さない珍しい分野であったかと考えます。ここからは、具体的な話をします。

ちょっと前になりますが、ある有名漫画家の建てた自宅の外壁の色(赤と白の縞模様)が周囲の景観にそぐわないということで周辺住民とトラブルになり、その後訴訟に至るという出来事がありました。自ら所有する建物ですから、どんな色にしようが基本は自由なはずですが、しかしながら訴えた側は、そうした建物が建つことで、周辺住民の「住みやすい環境」が阻害され、結果的に地価の低下などという経済的な損失にもつながると考えたのでしょう。これは建物だけでなく、私たちが日常生活でよく目にする「屋外広告物」も同様で、地域の雰囲気にとぐわない“どぎつい”色や内容の屋外広告物のことが頭に浮かんだ方もいらっしゃると思いますが、自由な競争に任せていれば、際限のないカオス状態に陥っていくことが予想されます。

したがって、「景観」や「屋外広告物」に関しては、自由競争に任せておくのではなく、ある一定の「規制」もしくは「誘導」が必要になるものと考えられます。

2. 「よい景観」とは何か

そもそも「景観」、そして「よい景観」とはなんのでしょうか？景観講演会で3年前よりお世話になっている堀繁教授(東京大学アジア生物資源環境センター長)は、「景観」とは「見ること」であり、そして「よい景観」とは「見たいものが見やすい状態にあること」と定義しました。すなわち、ある特徴的な形の山を持っている地域であればその山が見やすい状態にある、あるいは、ある特徴的な建築物を持っている街であればその建築物が見やすい状態にあることが、地域住民や観光客には望まれるわけであり、それができないと「よい景観」ではなくなるということです。

先に述べた漫画家の、自宅外壁の色問題は、きっとその地域の人たちが誇りに思い、そして他地域の人たちに見せたいきれいな街なみを阻害すると感じてしまうような建物の色だったからこそ、トラブルにつながっていったのだと推測します。

3. 広域景観形成モデル事業

「よい景観」にとって「規制」と「誘導」は必須です。これらを実質的に行うために、国では「景観法」「屋外広告物法」を制定し、また、都道府県や市町村ではより地域に即したきめの細かい「景観条例」や「屋外広告物条例」を制定して、地域住民が誇る「よい景観」を守ろうとしています。

しかしながら、市町村が行う景観の規制や誘導はいわば「面的」なものであり、主要幹線道路においては、市町村境を超えた「線的」なものとして、統一的に規制や誘導をしていかななくてはなりません。すなわち「景観軸」に沿った「広域景観形成」が必要となり、これは広域行政を担う県が、複数の市町村の意見をまとめながら、市町村と一体となって作っていく必要があります。

このような問題意識から、本県では今年度より「広域景観形成モデル事業」に着手しました。これは、吾妻地区への主要幹線道路となる「上信自動車道」と、県北地域の主要観光ルートである「日本ロマンチック街道」を取り上げ、これらの沿道景観や眺望景観、および視点場について統一的な規制と誘導を行っていこうとするものです。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録以来、多くの観光客でにぎわう本県ですが、観光客に再度の来訪を促すだけでなく、地域の人たちが自らの郷土に誇りを持ち続けるためにも、この「広域景観形成モデル事業」

は必須のものと考えています。

4. 景観講演会にお越しください！

本県では、「景観」や「屋外広告物」についてたくさんの人が関心を持ち、理解を深めてもらうために「景観講演会」を開催しております。今年度は平成26年10月に「景観モデル地区づくりのポイント」と題して、富山大学芸術文化学部の武山良三教授に御講演をいただきました。また同11月には「フランスで進む眼と脚の都市デザインー反walking poorの都市計画へ」と題して首都大学東京の鳥海基樹准教授に、「あかりからのまちづくり」と題してぼんぼり光環境計画(株)代表取締役の角館まさひで氏に御講演をいただきました。

今年は1月21日(水)の13:00から、富岡市の富岡商工会議所におきまして、先述の東京大学アジア生物資源環境センターの堀繁教授に「一過性に終わらせない集客のまちづくりー順風時は次の一手の大チャンスー」と題した景観講演会を開催します。(8ページのお知らせに詳細あり。)

皆様にはこの講演会に足を運んでいただくとともに、まちづくりの中での「景観」や「屋外広告物」を考える上で、のきっかけにいただければ、主催者として幸いです。



景観講演会(平成26年10月)の様子



景観講演会(平成26年11月)の様子

景観講演会

ー講師ー

東京大学
アジア生物資源
環境研究センター

教授
堀 繁

ー専門ー
景観デザイン、景観工学、計画設計思想史、地価論

ー経歴ー
1952年東京生まれ。東京大学農学部卒業後、環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京大学社会学部助教授などを経て、平成8年3月より現職。国土審議会、歴史的風土等審議会の各専門委員会、国、公団、地方公共団体の各委員会委員・委員等を歴任。地域の発展を前提とした景観、アメニティ、観光リゾート、自然環境保全の計画設計を中心課題とする。

ー講演プログラムー

12:30	受付開始
13:00	開会 あいさつ
13:10	富岡市景観賞表彰式
13:30	講演
15:30	質疑応答
15:40	閉会

入場 無料

2015年1月21日(水) 13:00開会
富岡商工会議所 3階 ホール

〇お越しの際は公共交通機関をご利用ください。
〇商工会議所には駐車スペースがありませんので、お車で越しの方は、富岡市役所の北駐車場又は西駐車場、富岡駅東駐車場をご利用ください。

申込み方法:電話又はメール、又は裏面の申込み書に必要事項を記入の上、FAXでお申し込みください。
申込先:群馬県 県土整備部 都市計画課 景観・都市行政係
Tel.027-226-3952 / Fax.027-221-5566 E-mail: kekan@pref.gunma.lg.jp

主催:群馬県都市計画協会・群馬県・富岡市

景観講演会(平成27年1月21日)チラシ



まち歩きの様子



コミュニティサイクルのすゝめ

前橋工科大学工学部社会環境工学科 4年 藤井 諒（地域・交通計画研究室）

コミュニティサイクルとは、環境にやさしく健康にもよい自転車を使った新しい交通システムです。従来はレンタサイクルが一般的でしたが、近年は多くの都市でコミュニティサイクルの導入が進んでいます(2013年12月現在、全国の54都市で本格導入。国土交通省調べ)。レンタサイクルとコミュニティサイクルの違いは、図1に示すように都市内に設置された複数のサイクルポートであれば自由に貸し出し・返却が可能な点です。またレンタサイクルは貸し出し時間の制限が設けられていますが、多くのコミュニティサイクルはいつでも利用可能です。

コミュニティサイクルは鉄道やバスなどの公共交通機関の補助交通機関としての役割を担っており、その導入効果としては、まちなかの回遊性向上、都市内観光の増加(アーバン・ツーリズム)、放置自転車や違法駐輪の削減、CO₂削減による環境改善などがあります。群馬県内でコミュニティサイクルを導入しているのは高崎市の「高チャリ」があります(写真1)。「高チャリ」は、高崎駅の西口エリアを中心に全部で16のサイクルポートが設置されており、利用料金は無料で買い物やまちなか観光などに利用されています(9時から22時まで利用可能)。このように多くの都市で導入が進んでいるコミュニティサイクルですが、導入を進めるに当たってはいくつかの課題もあります。最大の課題は自転車に関係している交通事故の増加です。表1は、人口10万人当たりの自転車乗用中の死傷者数の都市別順位(全国289都市)を表したものです。群馬県内では前橋市が9位、高崎市が21位と全国の中でも上位を占めていることが分かります。その主な理由としては自転車レーンの未整備にあります(写真2、国土交通省HP)。自転車利用者は歩道や車道を走行しますが、自転車対歩行者・自転車対自動車の事故が群馬県内でも年間に3千件以上発生しています。自転車による交通事故を削減するためには、自転車レーンの設置が必要となります。全国で自転車レーンの設置が進んでいる県としては、栃木県の115.0kmが最長であり、次いで神奈川県36.2km、長野県22.2km、東京都14.0kmとなっており、残念ながら群馬県は全くの未整備状態です(2012年度末現在、警察庁調べ)。

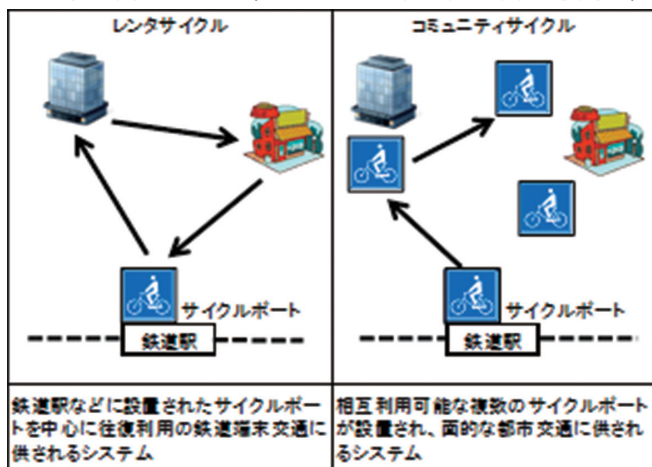


図1 レンタサイクルとコミュニティサイクル



写真2 自転車レーン

表1 自転車乗用中の死傷者数		
	順位	死傷者数
前橋市	9位	265人
高崎市	21位	233人
太田市	59位	192人
伊勢崎市	63位	190人
桐生市	90位	175人

2003年～2012年までの平均値
人口10万人当たりの死傷者数(全国289都市)

コミュニティサイクルの導入に当たっては、事業方式の決定(行政や民間)、サイクルポートの設置や維持管理に伴う費用負担など検討すべき多くの課題がありますが、交通やまちづくりの課題を解決するための一つの手段としての可能性を秘めていますので、群馬県内の多くの地域での導入を期待しています。



写真1 高崎市のコミュニティサイクル(高チャリ)



観光まちづくり **最前線**

No.6

地域を歩くレポート

観光まちづくりのススメ～

鍵を握る観光協会のこれから…

～墨田観光協会と大田観光協会の取材を通して

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

謹賀新年。有名な神社・仏閣のある地域の観光協会は、正月気分も返上で観光客への様々なサービスを提供されているのでは…。今回は、観光の担い手となって地域を日夜盛り上げている「観光協会」についてレポートします。

■観光協会の事業実態と課題

私たちが旅行に行こうと思いついた時に、大変役立つ情報は観光協会ホームページにあります。“行ってみて～いい!!”と思う地域、“まあっ、いいか”と思う地域…最初に出会うホームページ情報の印象が鍵を握っている時があります。

全国の観光協会を対象とした調査によると、7割～8割の組織が、観光イベントに取り組んでいます。次いで、広域観光連携、ガイド等の人材育成研修、教育旅行誘致等。そして今後は、グローバルな視点でのMICE誘致や海外セールス等への展開も模索中とのことです。国内に留まらず幅広く観光プロモーション展開を図る考えのようです。その実現のために必要な人材ベスト3は、地域全体の観光を経営するリーダー、ガイド・インストラクター(通訳含む)、旅行業にかかわる専門家です。しかし人材確保や育成には消極的な組織が多いのが現状です。それは、「予算不足」「会費・補助金への依存体質」「人材不足」「ノウハウ不足」の4点の課題によるものです。観光協会のご苦労は少なくないようです。

■新しい取り組みを進めている東京都特別区の観光協会

商工会議所などが中心となり、新しい観光を推進することを目指している『商工業連携型』の観光協会があります。地域の商店街・工場などの伝統・技術を観光に結び付けている、(一社)墨田区観光協会と(一社)大田観光協会の活動を取材してきました。

最近ではスカイツリーが有名な墨田区ですが、明治時代の殖産興業政策による軽工業発祥の地でもあります。鐘ヶ淵紡績(後のカネボウ)、花王、朝日麦酒(後のアサヒビール)、精工舎(後のセイコー)などの大工場の立地とともに中小零細規模の繊維、化学などの雑貨工業や機械・金属、出版・印刷などの工業が発展し、一大工業集積を形成するに至ります。同じく商工業連携型の大田区は、4000もの工場があり、都内で最も多く工場が存在する「モノづくり」の町として世界的に有名です。

これらの地域では、それぞれ地元の方と協力し、すみだ3M活動やおおたオープンファクトリーという「モノづくりの街」を全面的にアピールしたイベントを開催しています。普段は見ることのできないモノづくりの現場を体験・見学し町工場を知ってもらおうという旨のイベントです。

商工業連携型とは異なり、観光を通して地域間交流・国際交流を進めようとする『観光まちづくり推進型』の事例として中野観光協会を紹介します。中野区では「サブカルチャー」の集積地であることを生かした観光スポットづくりを展開中です。特に中野ブロードウェイは、国外からの観光客も集まる観光スポットとなりつつあります。サブカルチャーとは、主流文化に反する個人・グループの文化というものです。社会的マジョリティの文化・価値観から逸脱した「下位集団」のことであり、メディア文化以外の価値観、行動様式、話し言葉など、本来の「文化」に近い意味で「サブカルチャー」と称されています。また、まちづくりを推進していくうえで、「まちなかのバル」もあります。中野駅周辺の商店街が開催する食べ歩き・飲み歩きイベントです。チケットを購入し、それと引き換えに様々な飲食物を食べ歩く、地元密着主義で行われています。

最後に、観光事業や観光まちづくりを進めていくには、その中心的役割を期待される観光協会の力だけでは限界があることを理解しておく必要があります。市民との協働、子供や若者も参画しやすい環境づくりを整えることが、これからの観光協会に求められてくるのではないのでしょうか。今後、よりクリエイティブで満足感を与える「地域の個性的で斬新な価値」が、観光協会の編集力、市民の新しい発想との調和の中で生み出されることに期待しています。

(©宮崎・金箱・水野・中川・津島)

【参考資料】(社)日本観光協会(平成23年3月)『地域観光協会等の実態と課題に関する調査報告書』



『ご当地キャラクターフェスティバル in すみだ 2014』に大下ゼミがボランティアとして参加。炎天下の中みんな頑張りました。いろんなゆるキャラや各都道府県の名産品など見ることができて楽しかったです。



大田観光協会では独自に着地型のまち歩きプログラムを開発し実践しています。写真は、NHK朝の連ドラの「梅ちゃん先生(ドラマの舞台は大田区蒲田)」にちなんだツアーの一場面。



魅力あるまちづくりの 「パートナーネットワーク講座」って？



群馬県 県土整備部 都市計画課 まちづくり推進係

この「おっ!! まっちい〜」でよく見るワード「パートナーネットワーク講座」について、今回はマーチィが分かりやすく説明します。

1. 「パートナーネットワーク講座」って、何？



Q. 「パートナーネットワーク講座」とは？

A. まちづくりに必要なワークショップの技術や知識を楽しみながら学ぶ講座だよ。ちなみにワークショップとは、様々な立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめあげていく場のことだよ。

Q. 目的って何？

A. 参加者の声をよく聞き、思いを形にすることができる「合意形成能力」と、まちづくりを成功に導く「企画力・マネジメント力」を兼ね備えた『コーディネート型のリーダーシップを持った人材』を育成することを目的としているんだよ。

Q. どんなことをするの？

A. “まち歩き”や“特定施設の利活用法の検討”などを通して「ワークショップの運営手法」、「地域資源活用法」、「まちづくり企画法」などを学習するんだよ。「入門編」「発展編」「応用編」の3段階で構成されているんだ。

Q. 誰が参加できるの？

A. これからまちづくりに参加してみたいと思っている人、住民の合意形成を図る必要のある市町村担当者など、まちづくりにやる気のある人なら誰でも受講できるんだ。

Q. どうやったら参加できるの？

A. 講座に参加するためには、県内市町村の都市計画担当部局に申し込んでもらうことが必要なんだ。

Q. 参加すると何かいいことあるの？

A. 2年間で3段階の課程全てを修了すれば、群馬県知事認定の「群馬県まちづくりファシリテーター」となれるんだ。

Q. 今までにどれくらいの人認定されているの？

A. 平成17年度から認定が始まり、これまでに129名の「群馬県まちづくりファシリテーター」が認定されたんだ。

Q. 認定された人は、どんな活動をしているの？

A. まちづくりのために開催されるワークショップでファシリテーターとして積極的に活躍しているんだ。また、市町村の職員の場合は、事業進捗には欠かせない住民の合意形成を図るためにも活用されているんだよ。



2. 「入門編」「発展編」「応用編」はどんなことしているの???

◆ 入門編（8月の平日2日間）：県庁で座学の講義と模擬ワークショップなどを通してワークショップの運営法を学ぼう。

1 日目				2 日目			
午前		午後		午前		午後	
講義	班分け	アイスブレイキング	WS①	WS②	発表	WS③	発表



班分けの様子



アイスブレイキングの様子
参加者の緊張をときほぐす
為に、自己表現と他己紹介
をしました。

◆ 発展編（10月の金土）：“まち歩き”を通して、まちづくりに必要な地域資源を活かす目線を養うよ。

1 日目				2 日目			
午前		午後		午前		午後	
講義	班分け	まち歩き	意見交換会	WS①	発表	WS②	発表

◆ 応用編（11月の金土）：“まち歩き”を通して、地域活性化に向けての潜在的な問題点を拾い出した上で、地域に根ざした活用方策を検討するよ。そして、まちづくりに必要な企画力・マネジメント力を養うんだよ。

1 日目				2 日目			
午前		午後		午前		午後	
講座	班分け	まち歩き	意見交換会	WS①	発表	WS②	発表



まち歩き



WS



発表





マーチィ's ROOM

マーチィに訊け！

まちづくりライブラリーからおすすめの一冊 県都市計画課で貸し出しできます！
地方消滅 東京一極集中が招く人口急減 増田寛也編著（中公新書）



今号のおすすめ
ライブラリーこちら！



うちのおじいさん(私の父)が「最近、県も市も駅のまわりにばかり金かけていて、うちの方はどんどんさびれるじゃないか」と怒っていました。ちなみに彼が住んでいるのは、合併のために名前が消えた(専門的に言うと)非線引き都市計画区域で、(簡単に言うと)街道沿いの農村地帯。

「じいさん、それには理由があって、そうしないと、市全体がもっとダメになるんだよ」って言ってやりたいけど、きっと「実感」としてわからないなと思って、老い先短いじいさんを説得するのは止めました。

著者の増田さんは、その「実感」をできるだけ感じてもらうために「消滅」という言葉を使って、人口減少によって多くの地域が消滅する可能性があると強く危惧しています。本当に消滅するかどうかはわかりませんが、少なくとも人口推計は、景気予測よりも確実性ははるかに高いのです。

まちづくりを進める方には、この「実感」をいかにわかりやすく伝えて冷静に対処するかが問われているように思います。

マーチィ VOICE

●ファシリテーターの紹介●

藤岡市 都市計画課 稲垣 純



稲垣純さん(右から2番目)



講座の様子

私は、平成25年度に群馬県パートナーネットワーク講座を受講しましたが、正直、参加するまでは「ファシリテーター??」という感じで、何を学ぶ研修かもよく分かっていない状態でした。しかし、本講座を受講するうちに、ワークショップの有効性や、ファシリテーターのノウハウ、また講座自体の楽しさを実感していききました。(それと同時に、ファシリテーターの難しさも痛感しましたが...) 本講座を多くの方にお奨めしたいと思いますので、講座の概要やお奨めポイントなどを紹介したいと思います。まず、ワークショップとは、1つのテーマに対して、同じ体験を通して楽しみながら相互理解・合意形成を見つけ出していく話し合いの手法です。新規企画のアイデア出し会議などがワークショップのイメージです。

次に、ファシリテーターとは、ワークショップの進行にあたり、参加者の意見を上手く引き出したり、議論を円滑に進めたりするための調整役です。ワークショップでは、一部の人がばかりが発言してしまう、議論がテーマから脱線してしまう、といったことが起こり得ますが、これを調整するのがファシリテーターの役割です。

本講座では、そのファシリテーターのノウハウについて、参加者同士でワークショップを行うことで、実践を通して学ぶことができます。参加者はほとんどが初対面同志ですが、協働しているうちにどんどん仲良くなっていきます。他市町村の人と自由に意見交換できたのは貴重な経験でした。

最後に講師である大下先生についてですが、ユーモアに富んでいるため講演自体が聞いていて面白く、プログラムも参加者が楽しめる仕掛けが盛り込まれています。3回の講座とも楽しみながら学ぶことができました。

このように、業務に役立つスキルを楽しく学べ、他市町村の職員とも親睦を図れる本講座の受講をお奨めしますので、是非ご検討下さい。

結びに、この場をお借りして大下先生をはじめ、事務局並びに参加者の皆様に御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

マーチィの掲示板

～土地区画整理組合連合会東日本ブロック協議会を開催しました～



10月27日にホテルメトロポリタン高崎において、土地区画整理組合連合会東日本ブロック協議会を開催しました。本協議会は平成4年度から開催しており、群馬県での開催は4回目となります。

高齢化や人口減少などの進展により、都市の生活を支える機能をいかに維持していくかが課題となる中、「まちのまとまり」をつくる上で、土地区画整理事業が果たす役割は大変大きくなっています。

土地区画整理事業組合に従事する者同士が一堂に会して、それぞれの組合が抱えている課題等について意見交換をする貴重な機会となりました。

また、翌日の28日には、世界遺産登録された「富岡製糸場」にふさわしいまちづくりと高崎市内の土地区画整理事業を現地視察しました。事業の成果とともに群馬県の魅力をアピールすることができました。

開催にあたりご協力いただきました関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

群馬県土地区画整理組合連合会事務局(群馬県都市計画課まちづくり推進係) 荻野 美子





まちづくりイベント情報



JOIN移住・定住&地域おこしフェア

全国各地の「いなか暮らしに役立つ情報の収集」と「地域の魅力再発見」を目的としたイベントです。群馬からは群馬県と桐生市が参加し、全国105市町村に混ざって移住に関する相談にお応えします。他にも地域PRエリアなどもあります。

■1月18日(日) 10:00~17:00

■東京ビックサイト

【お問い合わせ先】 桐生市観光交流課交流促進係
Tel 0277-46-1111(内線367)



みなかみ地域エネルギーフェスタ

地球温暖化防止と低炭素社会への取り組み紹介など、みなかみの地域活性化を目指すイベントです。映画上映、講演会、電気バス乗車、エネルギー工作、ペレットストーブ運転実演などを行います。

■1月24日(土)~1月25日(日)

1/24 9:30~22:00 1/25 10:00~18:15

■みなかみ町

新治農村環境

改善センターほか

【お問い合わせ先】

株式会社りゅういき

自然エネルギー

代表 河合純男

Tel 0278

25-3959



桐生市移住相談会

まちの活性化を図ることを目的に、ふるさと回帰支援センターで、桐生市移住相談会を実施します。移住に関する相談のほか、移住者によるトークセッション、織物体験、抽選会など、盛りだくさんの内容です。また、事前にお申込みをいただいた方には、もちろん記念品を進呈いたします。ぜひこの機会に桐生での移住生活を考えてみませんか。

■2月21日(土) 11:30~14:30

■ふるさと回帰支援センター

【お問い合わせ先】 桐生市観光交流課交流促進係

Tel 0277-46-1111(内線367)



おしらせ

景観講演会一過性に終わらせない集客のまちづくりと儲かる店づくり

『一過性に終わらせない集客のまちづくりと儲かる店づくり〜順風時は次の一手の大チャンス〜』と題して、東京大学アジア生物資源環境研究センター堀繁教授にご講演頂きます。まちづくりの中での「景観」を考えるきっかけになります。

■1月21日(水)

受付12:30~ 開演13:00~

■富岡商工会議所 3階ホール

【お問い合わせ先】

群馬県 県土整備部 都市計画課 景観・都市行政係

Tel 027-226-3652



〜ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム〜 モビリティ・マネジメント-公共交通を使うライフスタイルはカッコイイ!-

『モビリティ・マネジメント』をテーマに、公共交通を利用するための動機付けやイメージ戦略などについて、筑波大学大学院 谷口綾子准教授にご講演頂きます。また、2市によるアクションプログラム策定の事例紹介もあります。

■2月9日(月)

開場 13:30~ 開演 14:00~

■高崎シティギャラリー

【お問い合わせ先】

群馬県 県土整備部 都市計画課 まちづくり推進係

Tel 027-226-3661



The creation of new Hometown

新しいふるさと創造

建設コンサルタント
株式会社 高崎測量

・都市計画
・測量調査
・土木設計
・建物補償

〒370-0002 高崎市日高町580番地
TEL 027-361-2271(代表)
FAX 027-363-4743
URL www.takasoku.co.jp
E-mail tk-mail@takasoku.co.jp

帝京大学 観光経営学科
Department of Tourism Management

2015年八王子キャンパスに地下2階地上22階の新校舎が誕生します。

学際的教養、豊かな国際感覚、確かな専門知識をあわせ持った人材を育成します。

- ・観光産業を経済学、経営学の流れの中で学ぶ。
- ・「旅行業務取扱管理者」資格取得に向けて万全のフォロー体制。
- ・実地で旅行業務が学べる「実習授業」が豊富。

入学試験情報 ※詳細は必ず入学試験要項2015をご確認ください。

	出願期間	選考試験日	合格発表日
一般入試1期	平成27年1月5日(月)~1月22日(木)	【試験日自由選択制】 1月29日(木) 1月30日(金) 1月31日(土)	2月4日(水)

※一般入試1期1月29日(木)は、高崎試験場を含む地域試験場がございます。

八王子キャンパス広報グループ TEL: 0120-508-739 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359
お問い合わせ先 URL: <http://www.teikyo-u.ac.jp>

マーチの独り言



去る12月7日(日)に開催された「第3回中之条まちなか5時間リレーマラソン」に、県都市計画課の雄志「花緑フルマラ」で参加してきました。メイン会場である「つむじ」(都市再生整備計画事業で整備)では、足湯、食事・休憩、情報発信など交流拠点となり賑わっていました。また、コースが商店街のため、沿道からの大声援を背に浴びながら走り、順番待ちの間には、おでん、豚汁、なめこ汁、ホットミルクなどの無料サービスで“ほっこり”癒やされ、地元の方々とのふれ合いもたっぷり感じられた心地よい大会でした！
皆さんも、来年参加してみたいはいかがでしょうか。 編集担当の同僚



有料広告を随時募集しています。詳細につきましては、下記のお問い合わせ先まで、お気軽にご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

群馬県県土整備部都市計画課まちづくり推進係 TEL 027-226-3665 URL <http://www.pref.gunma.jp/06/h5810001.html>